

谷 哲夫 教授

Prof. Tetsuo tani, Ph.D.

吃音を肯定的に捉えられるようになるまでの過程に関する 成人吃音者を対象とした予備調査

【プロフィール】

最終学歴：群馬大学大学院医学系研究科
 学位：保健学（博士）
 専門：失語症学、流暢性障害学（吃音）
 研究：失語症の回復要因の研究
 吃音の発症原因に関する神経心理学的研究

【所属学会】

- ・日本高次脳機能障害学会
- ・日本コミュニケーション障害学会

【キーワード】

発達性吃音、自己肯定感、思春期、自尊感情、言友会、

【最近の研究概要】

思春期の吃音児の自己肯定感促進要因を明らかにすることであるが、直接思春期の吃音児を調査対象にすることは避け、成人吃音者に対する遡及的方法で実施した。

対象：
 しずおか言友会（旧：浜松言友会）会員の「青少年のための吃音講座」における5分間の発表原稿。
 テーマは「吃音をいかに改善・克服してきたか、どのように明るく積極的に生きていたか」

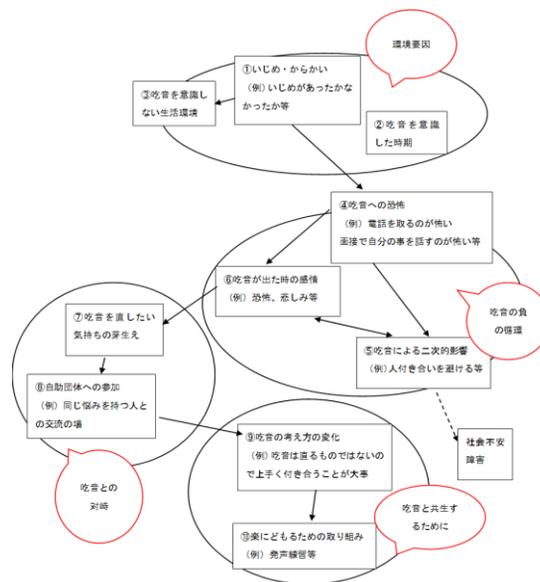
分析方法：

発表原稿の分析にはKJ法を採用した。

- ①原稿に書かれている要素をカードに書き込んだ
- ②意味的に類似するカードをグルーピングした
- ③合計10個のグループを作成した
- ④グループ間の関連を示す記号を使って図解化した
- ⑤グループを元に文章化を行った

2名で分析を行い進捗途中で言友会会員に開示するなどして客観性を持たせた。

グルーピング	主な要素
①いじめ・からかい	1. いじめがあった 2. いじめがなかった 3. 職場の上司にどもりを直せといわれた 4. 職場の上司にどもりを直さなくていいといわれた
②吃音を意識した時期	1. 小学生の頃 2. 社会人になってから 3. 物心付いた時 4. 中学生の頃 5. 高校生の頃
③吃音を意識しない生活	1. 日常生活で困ることはなかった 2. 吃音に気づかず生活していた
④吃音による二次的影響	1. 人との交流を避けるようになった 2. 自分の事が嫌いになった
⑤吃音への恐怖	1. 電話の対応が怖い 2. 自分の事を伝えるのが怖い 3. 授業中に当てられるのが怖い
⑥吃音が出た時の感情	1. 自分を責める 2. 吃音に対し怒りを感じる 3. 吃音に対し悲しみを感じる 4. 恥ずかしいと感じた
⑦吃音を直したいという気持ちの芽生え	1. 吃音を直すために言友会に入った
⑧自助団体への参加	1. 同じ悩みを持つ相手と語り合う場所 2. 自分を客観的に見直す場所 3. 自分にはないものを学ぶ場
⑨吃音の考え方の変化	1. 吃音は直すものではないため克服するのではなく上手に付き合うのが大事 2. 以前は吃音をカミングアウトや説明できなかったが今は出来るようになった 3. 吃音に悩むのが馬鹿馬鹿しくなった
⑩案にどもるための取り組み	1. 毎日発声練習を行った 2. 吃音について情報を集めた



分かったこと・課題：
 「吃音を意識した時期」に思春期に相当すると思われる時期が多かったことは、思春期に焦点を当てた研究の必要性を示唆した

「吃音を意識した時期」は「いじめやからかい」と関連する可能性は推定できたものの、自己肯定感の低下との関連については検討材料がなかった。さらなる調査の際に検討できるよう工夫したい

「吃音の負の循環」から「吃音との対峙」へ移行する要因は何か、明らかにする必要があると考えられた

【受賞】

- (しずおか言友会（旧：浜松言友会）会長・顧問として)
- ・2020年：静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団「第9回ふるさと貢献賞」
- ・2017年：中日新聞表彰事業「第34回中日福祉ボランティア賞」

【学会発表・論文発表】

- ・Tetsuo Tani and Naoki Wada, Stuttering and compulsive manipulation of tools after hemorrhage in the anterior corpus callosum and cingulate gyrus: a case study, Speech, Language and Hearing Taylor & Francis Group 2018/01
- ・谷哲夫、失語症訓練ソフト「言語くん自立編Ⅲ」を用いた慢性期失語症者の言語訓練効果－基礎データの調査報告－,群馬医学 106 2017/11

